

[講義の主題と目標]

論文とは何かからはじめて研究論文の書き方 = 作法を学ぶことを目標とする。さらに実践として、約 3.5 ヶ月掛けて小論文を書いてみることで、研究論文の書き方を疑似体験する。教科書[1]によると、初めて論文を書く場合に、6 ヶ月以上掛けないとまともな論文は書けないそうである。従って論文ではなく、小論文を書くことになる。そのために、参加者は大きなテーマを選択せず、重箱の隅的なテーマについて小論文を作成するのが望まれる(例えば、「バブル期の日本経済」ではなく「東京大学入学者の理系・文系選択のバブル期における変動 - 偏差値変動を中心として - 」の方が望ましい)。もっと大きなテーマは卒業論文で取り組めば良いではないか。テーマは各人の興味によって決めてほしいが、特に見つからない人については、講師がテーマのリストを用意するので、それから最も自分にあったものを選んでほしい。

私は計量経済学を研究しているため、研究内容に関する助言は統計的手法にかんするものに自己限定したい(自己限定の重要性を知るのもこの授業の目標である)。論文作法に対する助言はもちろん行う。この授業の目的はあくまでも論文作法の修得であるから。

私は計量経済学を研究している関係上、理科系的な論文作法に従っている。経済学でも人文科学的な論文作法に従う分野もあり、理系的な分野もある。どちらの分野の小論文もその作法に関しては指導できるのではないかと考えている。

[講義方法]

教科書[1]を輪読しながら、論文を作成する。完成した小論文は、小論文集として冊子にまとめ、受講者に配布する。なお、冊子の作成は受講者と講師が協力して行う。

[成績評価法]

小論文のできによる。

[教材]

< 教科書 >

[1] ウンベルト・エーコ 『論文作法：調査・研究・執筆の技術と手順』(谷口勇訳) 而立書房 1991年(原著1977年)

< 参考書 >

[2] 木下是雄 『理科系の作文技術』(中公新書) 1981年(理科系的な論文を書きたい人はこれも参照すること)

< ホームページ >

授業で使ったスライド，参考文献や授業の補足説明などは，
<http://ramsey.econ.osaka-cu.ac.jp/~Nakagawa/index.html> や
<http://homepage3.nifty.com/freshair> に掲載するので，適宜チェックすること．

統計解析論特殊講義〔前期 1 部開講〕

中川 満

The Special Lecture on Statistics

注意：以下の文章を注意深く，最後まで読んだ後，受講するかどうかを決めてください．

〔講義の主題と目標〕

経済学における統計学の最も一般的な利用法である線形回帰分析の手法の理論的根拠を学ぶ．統計解析論の授業では，線形回帰の手法の使い方，諸指標の見方，意味，関連などを学習されたと思う．この特殊講義では，統計解析論で所与とした，線形回帰の手法の統計理論的根拠・導出を，教科書に従って説明する．従って，授業，または，独習で統計解析論の授業程度のことを知っていることが履修には必須である．今回の授業では，この前提を満たさない学生に対して特別の配慮をしないから，そのつもりで受講していただきたい．

統計学の修得には，ふたつの側面があると考えられる．統計操作の方法の修得と操作の背景にある理論の修得である．本講義では後者に焦点をあてる．半期という時間的制約と，理論的背景を理解していないとただの暗記となり応用力が付かない点からである．なお，前者に関しては問題演習で自習してもらう予定である．

最小限の微分，演算が数学的な前提となる．（積分，行列を知っていればなおさらよい）
受講者の忍耐を申し訳ないが願います．これらについては，

〔講義方法〕

教科書に沿って講義する．

〔成績評価法〕

定期試験による．試験の際には電卓の持ち込みを許可する．教科書の練習問題を定期試験の問題に含める予定である．宿題は教科書の練習問題と同等な問題で統計操作に関するものを出す予定である．また，過去の統計解析論，同特殊講義の定期試験問題は参考になるから，経済学雑誌別冊講義資料を入手されることをおすすめする．

〔講義計画〕

- 1．線形回帰の基礎
- 2．最小二乗法の統計学
- 3．多変数回帰
- 4．仮説検定

5. 誤差項の諸問題

ただし，*のある節を除く．

〔教材〕

<教科書>

森棟公夫「計量経済学」東洋経済新報社 1999年

<参考文献>

森棟公夫『統計学入門（第2版）』新世社（統計学の基礎の復習に必読）

D．ロウントリー『新・涙なしの統計学』（加納悟訳）新世社（初歩から統計学を学ぶのに最適．自習できるのでテキストとしては使わないが，大変わかりやすい本）

木下滋，土居英二，森博美『統計ガイドブック（第2版）』大月書店 1998年（経済データの収集法が載っていて便利）

中川満「線形回帰における一歩進んだ仮説検定 - F 検定の利用法 - 」経済学雑誌別冊講義資料，2002年後期

中川満「統計解析論特殊講義演習問題集」経済学雑誌別冊講義資料，2001年後期

中川満「中心極限定理を実感する」経済学雑誌別冊講義資料，2000年前期

<ホームページ>

なお，授業で使ったスライド，参考文献や授業の補足説明などは，

<http://ramsey.econ.osaka-cu.ac.jp/~Nakagawa/index.html> や

<http://homepage3.nifty.com/freshair> に掲載するので，適宜チェックすること．また，教科

書については，著者が訂正・データ・補足説明を <http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/~morimune/> で公開している．これも参照されたい．

経済統計概論〔後期1部，2部開講〕

中川 満

〔講義の主題と目標〕

統計学の基礎を学習する．経済理論の検証については，実験経済学や較正(Calibration)などの新たな方法が提唱されているが，現在のところ統計学的推論に多くを依存している．従って，統計学は経済学理解に不可欠である．また，統計学を修得する際に使用する数学的操作は，保険理論，ファイナンス理論，ゲーム理論等を修得する際にも役に立つであろう．また，一般の社会生活においても世論調査，視聴率調査，選挙の出口調査など統計学利用の場は極めて広範，かつ，身近であるから，経済学を離れても，その理解は意味があるろう．

統計学の修得には，ふたつの側面があると考えられる．統計操作の方法の修得と操作の背景にある理論の修得である．本講義では後者に焦点をあてる．半期という時間的制約と，理論的背景を理解していないとただの暗記となり応用力が付かない点からである．このように目的を設定すると，最小限の数学（微分，積分，計算）利用は避けられない．受講者の忍耐を申し訳ないが願います．なお，前者に関しては適宜，スライドを使って説明

するつもりである。

なお、時間的制約と統計解析論で扱うことから、線形回帰は扱わない予定である。ただし、講義の進捗状況が許せばこの限りではない。

〔講義方法〕

教科書に沿って講義する。ただし、高校時代にすでに知っているとみられる事項は飛ばす。なお、授業には平方根を求めることができる電卓を持参してほしい。

〔成績評価法〕

宿題と定期試験による。試験の際には電卓の持ち込みを許可する。教科書の練習問題を定期試験の問題に含める予定である。宿題は教科書の練習問題のうち統計操作に関するものを出す予定である。過去の経済統計概論の定期試験問題は参考になるから、経済学雑誌別冊講義資料を入手されることをおすすめする。

〔講義計画〕

1. データの整理 (1.2, 1.3, 1.4, 1.6 を除く)
2. 確率 (2.1, 2.2 を除く)
3. 確率変数とその分布
4. 標本分布
5. 母数の推定
6. 仮説検定の基礎

ただし、* 付きの節は除く。

〔教材〕

<教科書>

森棟公夫「統計学入門(第2版)」新世社 1999年

<参考文献>

木下滋, 土居英二, 森博美「統計ガイドブック(第2版)」大月書店 1998年(経済データの収集法が載っていて便利)

D. ロウントリー『新・涙なしの統計学』(加納悟訳)新世社(初歩から統計学を学ぶのに最適, 自習できるのでテキストとしては使わないが, 大変わかりやすい本)

<ホームページ>

授業で使ったスライド, 参考文献や授業の補足説明などは,

<http://ramsey.econ.osaka-cu.ac.jp/~Nakagawa/index.html> や

<http://homepage3.nifty.com/freshair> に掲載するので, 適宜チェックすること。また, 教科

書については, 著者が訂正・データ・補足説明を <http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/~morimune/>

で公開している。これも参照されたい。

〔講義の主題と目標〕

経済学的考え方を身につけることを主眼とする。現代の諸問題に新古典派経済学がどのような答えを出すのかを味わってみよう。

〔講義方法〕

テキストの一部を輪読する。

〔成績評価法〕

発表と定期試験で判断する。

〔教材〕

<教科書>

ロジャー・ミラー，ダニエル・ベンジャミン，ダグラス・ノース「経済学で現代社会を読む」日本経済新聞社